

私の住むイビウーナ日伯寺は、南米・ブラジルの人里離れた高台の上にあります。

数年前、社会復帰施設から「外出訓練の一環として参拝したい」と数名の男女が心理療法士と来寺し、本堂に入るなり木魚を指さし「これは何か」と尋ねてきました。私は「お念仏をする時に使います。お念仏とは『NAMU AMIDA BUTSU』と仏さまの名前を呼ぶこと。私たちも呼ばれば振り向くでしょう。だから、呼べば必ず仏さまが見守ってくれますよ」と、拙いポルトガル語で説明し、「ためし

ちもいらっしやる」と話すと、涙を流

していた人は、再び涙ながらにお念仏をとなえはじめました。帰り際、その男性は「仕事の失敗から薬物に手を出してしまった。お念仏をとなえた時、妻や子供、亡くなった父母を思い出し、夕陽の彼方からみんな見守っていると聞いた途端、家族に見放され、追いやられたと自棄になっていた自分こそ、家族を見失っていたと気づいた。今日のこととは忘れず、必ず家族の元に返る」と手を握りしめ話してくれました。今も施設から参拝とお念仏を頼まれますが、利用者の一人がコロナ禍で配

西の彼方

西の彼方の確かな場所



On the other side of the western horizon lies the Pure Land.

揮毫 大本山金戒光明寺
第76世法主 藤本浄彦台下

にどうです？」と、10分程、木魚念仏をしました。最初は聞きなれない木魚の音やお念仏を面白がっていましたが、次第に木魚の音もそるい、お念仏の声も大きくなり、涙を流す人もいました。

お念仏を終えると、「お寺でしかお念仏はできないのか」と問われたので、「いつでもどこでも『南無阿彌陀佛』とおとなえただけでいいですよ」と伝えるも、心配そうな顔だったので「夕陽に向かってとなえてください。阿弥陀さまは夕陽が沈む西の方におられます。そこには仏さまと一緒に、今はこの世にいない皆さんの大切な人た

信していた夕日に向かって礼拝する動画を見ながらお念仏して、心が安定し、退院したという話を聞きました。あの時の彼だったのでしょうか。あの時気づいた自分を決して見放さない人たちがいる「確かな場所」を支えに、家族の元に来てくれていたらと思います。

法然上人が西方浄土を指し示して850年、その指先は時と海を越え、日本からはるか西、ブラジルの地でも、不確かな世相に不安を抱えながらお念仏をとなえる人たちに「確かな場所」はここだと指し示し続けています。

(南米イビウーナ日伯寺 櫻井聡祐)